

## 文部科学省 共同利用・共同研究拠点

立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点  
2014年度 共同研究成果報告書

2015年4月30日 提出

1. 研究課題名	
板木デジタルアーカイブ拡充による板木の研究利用促進 (英文標記:Promoting the Research Use of Printing blocks by Digital Archive Expansion)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
永井一彰	奈良大学文学部・教授
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
金子 貴昭 (かねこ たかあき)	立命館大学衣笠総合研究機構・准教授
栗田 美由紀 (くりた みゆき)	奈良大学文学部・助教
西村 明高 (にしむら ひろたか)	株式会社法蔵館・代表取締役
吉田 譲(よしだ ゆずる)	佛光寺版木保存研究室・室長
4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)	
<p>申請者は、近世文学研究・出版研究に関わり、「本」ではなく、近世出版の根本装置であった「板木」に主眼を置き、本からは分かり得なかった情報を板木から得て蓄積することにより、文芸や出版に関わる新視点の獲得を目指している。それにあたり本研究課題では、デジタル技術・IT 技術による板木デジタルアーカイブ構築を推進し、日本文化に関わる基礎資料の分析・考察という基礎研究型の成果を創出するとともに、デジタルアーカイブ公開によって研究界全体の基盤強化をも目指す。さらに、博物館学分野および板木所蔵機関と共同することにより、板木の保存・管理・活用に向けた所蔵機関ネットワークの構築に着手するものである。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>本研究課題では、(1)これまで永井・金子を中心に構築してきた板木デジタルアーカイブの拡充、(2) (1)を通じて板木の研究利用促進と、板木活用の裾野の拡大、(3) (1)の活動を通じてアート・リサーチセンターをハブとする板木所蔵機関ネットワークの形成、(4)博物館分野との連携による、板木の保存・管理に向けた情報蓄積と(3)のネットワークにおける情報共有、の活動を行った。</p> <p>結果、(1)については当年度に 15,609 カットのデジタルアーカイブ構築が進捗し、板木デジタルアーカイブを拡充した。(2)については当年度中のデジタルアーカイブ公開には至らなかったが、次年度以降の公開を視野に入れている他、当年度までに構築したデジタルアーカイブを基盤に図録的研究書『(仮題)近世出版の扉を開く』を刊行することが決定し(2015年度、笠間書院)、板木の研究利用促進を図る予定である。(3)については、株式会社法蔵館、本山佛光寺とのネットワーク構築を確かなものとした他、2件の所蔵機関・所蔵者との連携関係を構築した。また、国際会議や国際協議会参加を通じて、海外所蔵機関との関係構築も行った。(4)については、研究協力者の協力を得て、保存科学の観点からの板木分析を行い、X線撮影による板木内部の観察、</p>	

電子顕微鏡観察によって部材についての調査を行った他、板木に発生するカビの特性を明らかにし、除法を蓄積した。

当該共同研究課題は、2015 年度は本拠点において予算配分を受けないが、別予算によって上述の成果蓄積と発信活動を継続し、国際展開も図る予定である。

## 6. 研究業績

### (1) 著書

該当なし

### (2) 論文

該当なし

### (3) 研究発表等

- ・永井一彰、『誹諧短冊手鑑』と「寛文頃名誉人」、日本近世文学会秋季大会発表、2014 年 11 月
- ・【招待発表】永井一彰、「日本の板木—その形状と工夫」、東アジア木版国際会議(The East Asian International Woodblocks Conference)、2015 年 3 月、ソウル大学湖岩教授会館、査読無
- ・【招待発表】金子貴昭、「日本近世期の板木現存状況とデジタルアーカイブによる保存・活用」、東アジア木版国際会議(The East Asian International Woodblocks Conference)、2015 年 3 月、ソウル大学湖岩教授会館、査読無

### (4) 主催したシンポジウム・研究会等

該当なし

### (5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

- ・金子貴昭、「板木デジタルアーカイブが切り開く出版研究の可能性」、『文化情報学ハンドブック—情報メディア技術から「人」を探る』(勉誠出版、pp.67-71)、2014 年 11 月
- ・金子貴昭、「永井一彰『板木は語る』笠間書院」、図書新聞 3174 号、2014 年 9 月
- ・金子貴昭、「版木に伝わる出版事情 若手研究者が調査研究 法蔵館」、文化時報、2014 年 9 月

### (6) 受賞学術賞

- ・伊賀市・芭蕉翁顕彰会、文部科学大臣賞、永井一彰『月並発句合の研究』(笠間書院)、2014 年 10 月

### (7) 科学研究費助成事業

- ・金子貴昭、「板木を核とした出版記録の再読解と出版記録データベースの構築」、若手研究(B)、平成 25 年 4 月—平成 28 年 3 月、代表

### (8) 競争的資金等(科研費を除く)

該当なし

### (9) その他

該当なし